

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY松山校(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 11日 ~ 2025年 12月 14日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	17名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日 ~ 2025年 11月 24日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりに合わせた支援の提供について	毎朝の朝礼や定期的なミーティングを通して振り返りや情報共有を行い、現状や課題をすり合わせながら、利用者様のニーズにニーズに合った支援につなげています。	今後も、職員一人ひとりの支援力をさらに高めるために、研修での学びやお子さまの様子の観察・分析を活かしながら、より細やかで丁寧な支援を目指してまいります。
2	安心して楽しめる居場所の提供	新しい活動の導入など、ニーズに合わせながらお子さまが自分自身で興味のあることや好きなことに集中して取り組める活動を提供しています。	今後も、発達のペースやお子さまの興味に合わせて、活動内容を定期的に見直しながら、より楽しく取り組めるよう工夫しています。
3	職員間のチームワークについて	職員同士が気軽に意見を交わせる環境づくりを意識し、チームとして一体となって、利用者様や保護者様への支援に取り組んでいます。	今後も、職員一人ひとりの意見を大切にしながら、日々の様子やカリキュラムの進捗、課題・振り返りや気づきなどを共有し、スタッフ全員が共通の認識を持って支援にあたれるよう、より一層の連携強化に努めてまいります。また、チームでの情報共有を通じて、お子さまの課題だけでなく、興味や強みにも目を向けた支援を実践してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者送迎時の駐車スペースが確保が難しいこと	現在、事業所には十分な専用駐車スペースをご用意できておりおらず、保護者の皆さまにはご不便をおかけしております。 当事業所は中心街に位置しているため交通量も多く、安全面や道路交通法の観点からも慎重な対応が必要な状況である。	到着時にお電話をいただくことで、職員が速やかにお車までお迎えに伺うなど、安全かつ安心してご利用いただけるような対応を継続してまいります。
2	活動スペースの使用方法について	事業所のスペースに限りがあるため、多機能化に伴う活動エリアの確保について現在検討を重ねております。	物の配置を工夫するなど物的環境の整備を進めるとともに、活動内容にも柔軟に工夫を加えながら、利用者様一人ひとりのニーズに応じた支援が行えるよう努めてまいります。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY松山校(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 11日 ~ 2025年 11月 24日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日 ~ 2025年 11月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりに合わせた支援の提供を行なっていること。	毎朝の朝礼や定期的なミーティングを通して振り返りや情報共有を行い、現状や課題をすり合わせながら、利用者様のニーズにニーズに合った支援につなげています。	今後も、職員一人ひとりの支援力をさらに高めるために、研修での学びやお子さまの様子の観察・分析を活かしながら、より細やかで丁寧な支援を目指してまいります。
2	お子様が安心して学校生活を送り、円滑に適応できるよう支える支援体制	就学直後のお子さまが安心して学校生活に適応できるよう、生活リズムの安定や集団生活への慣れを支援する体制を整えております。特に、就学移行期における不安の軽減に努めるとともに、お子さまが自分らしさを發揮しながら、楽しく学校生活を送ることができるよう意識して支援しております。	現在、取り組んでいる活動後の振り返りや主体性を育むプログラムについては、子どもたちが楽しみながら自分の気持ちや考えを表現できるよう、遊びや対話を取り入れた工夫を重ねております。今後は、活動のバリエーションや表現方法をさらに広げ、子どもたちの発達段階に応じたアプローチを充実させてまいります。
3	職員間のチームワークについて	職員同士が気軽に意見を交わせる環境づくりを意識し、チームとして一体となって、利用者様や保護者様への支援に取り組んでいます。	今後も、職員一人ひとりの意見を大切にしながら、日々の様子やカリキュラムの進捗、課題、振り返りや気づきなどを共有し、スタッフ全員が共通の認識を持って支援にあたれるよう、より一層の連携強化に努めてまいります。また、チームでの情報共有を通じて、お子さまの課題だけでなく、興味や強みにも目を向けた支援を実践してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの使用方法について	事業所のスペースが限られていることから、多機能化に対応した活動エリアの確保について、今後も検討を進めていく必要があります。	物の配置を工夫するなど物理的環境の整備を進めるとともに、小学生向けの活動に取り組みながらもお子さまの居場所を感じられる環境づくりを出来るよう努めます。
2	地域交流の機会の提供について	現在は、地域との交流活動はまだ実施ができておらず、お子さまの生活リズムの安定や集団活動への慣れを優先し、支援を行っている状況です。	子どもたちの成長や集団活動への適応の様子を見ながら、地域の行事や施設との連携について、今後少しずつ検討してまいります。まずは、施設内において地域に関する活動(地域の紹介等)から取り組み、段階的に外部との交流を広げていきたいと考えております。
3			